

第17回全国高等学校情報教育研究会全国大会（愛知大会）

大会Webページ



第17回全国大会（愛知大会）事務局長
愛知県立旭丘高等学校 教諭

井手 広康

1. はじめに

第17回全国高等学校情報教育研究会全国大会（愛知大会）は、『教科「情報」第3ステージ～未来を拓く情報教育～』という大会テーマのもと、2024年8月3日（土）・4日（日）に愛知県立大学長久手キャンパスで開催された。本来、愛知大会は2020年に第13回全国大会として開催される予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて中止となった。そのため、本大会は愛知県にとって実に4年越しの開催となった。

2. 愛知大会の概要

愛知大会の2日間のスケジュールを以下に示すとともに、2.1～2.7節では、愛知大会における主なイベントの概要を述べる。

- 1日目：2024年8月3日（土）
 - 12：30 総会
 - 13：00 開会行事
 - 13：35 基調講演
 - 14：50 分科会（セッション1・2）
 - 15：55 ポスターセッション／企業展示／VR体験会
 - 16：55 大会1日目終了
 - 17：20 懇親会
- 2日目：2024年8月4日（日）
 - 9：30 分科会（セッション3・4・5）
 - 11：05 分科会（セッション6・7）
 - 13：00 ポスターセッション／企業展示
 - 14：10 講演
 - 15：15 閉会行事
 - 15：45 大会2日目終了

2.1 開会行事（1日目）

開会行事では、開催地を代表して山下智之氏（愛知県立城北つばさ高等学校校長）が開会のことばを述べた後、全国高等学校情報教育研究会を代表して福原利信氏（東京都立久留米西高等学校校長）が挨拶した。続けて、ご来賓の加納澄江様（愛知県教育委員会高等学校教育課課長）、瀬川堅司様（名古屋市教育委員会高等学校教育課課長）、川畑博昭様（愛知県立大学学長）からご祝辞を頂戴した。

2.2 基調講演・VR体験会（1日目）

1日目の基調講演では、中村翼氏（有志団体 Dream On代表）に「未来を拓く共創活動～次なる“空飛ぶクルマ”を生み出す人をどう育むか～」という題目でご講演をいただいた。中村氏の空飛ぶクルマの開発に対する熱意と、未来を創る人を応援し育てていきたいという強い想いが感じられた。

また、基調講演の後に行われたVR体験会を通して、東京上空飛行を楽しむだけでなく、このような取り組みが、空飛ぶクルマの社会実装に向けた社会的認知の拡大や、社会受容性の向上を図る上で大切な役割を担っていることを知ることができた。

2.3 分科会（1・2日目）

分科会では、三つの会場でそれぞれセッション1～7に分かれて計21件の発表が行われた。なお、セッション1・2は1日目、セッション3～7は2日目の実施となっている。愛知大会の分科会では、プログラミングやデータサイエンス、生成AIに関するテーマを中心として、問題解決に重きを置いた実践が目立っていた。

以下、分科会1～3における発表番号と発表題目をそれぞれ示す。

▼分科会1 (7件)

- B1-1 生徒の重要な関心ごとの「学習方法」をテーマにした問題解決の授業
- B1-2 生成AI研究校としての取り組み
- B1-3 教育用ドローンを使ったプログラミング (python) 教育の実践について
- B1-4 「人間」と「機械」の関係性を探求する
- B1-5 単元「情報社会の問題解決」における生成AIを活用した授業の実践
- B1-6 SSDSEでPPDAC
- B1-7 情報Iで行ったネットワーク構築の授業実践

▼分科会2 (7件)

- B2-1 情報II (文系選択) で取り組む問題解決
- B2-2 情報Iから始まる、情報教育の現状と指導方法の模索
- B2-3 情報Iにおける実データを活用した統計的仮説検定の実践と今後の展望
- B2-4 プログラミング教育における教材と授業方法の違いが学習成果に与える影響の比較分析
- B2-5 防災教育VRコンテンツの改善を検討する授業実践
- B2-6 プログラミング教育における言語統一型と言語選択型での学習効果の比較
- B2-7 「データの活用」における相関分析を対象とした複数校での授業実践例

▼分科会3 (7件)

- B3-1 Pythonと共通テスト用プログラム表記を併用したプログラミング授業
- B3-2 応用的なデータベース学習としてSQLの知識を活かした身近なデータを扱う取り組み
- B3-3 観点別評価をどのように行っているか
- B3-4 紙飛行機制作から始める問題解決・情報デザイン・データ活用の授業
- B3-5 生徒自身のペースで進めるプログラミングによるシミュレーションの実践と検討
- B3-6 専門学科情報科におけるアクティブラーニングを取り入れた情報セキュリティ教育
- B3-7 生成AIを活用したプログラミング教育の実践

2.4 ポスターセッション (1・2日目)

ポスターセッションでは、28件の発表があり、教科横断や高大連携、大学入試、機械学習、生成AIなど多種多様な発表内容で、会場は大きな盛り上がりを見せていた。なお、ポスターセッションは、当初は1日目と2日目を通して同じ発表となる予定であったが、想定を大幅に超える申し込みがあったため、選考を行うとともに、1日目と2日目に別々の発表を割り当てることになった。

以下、ポスターセッションにおける発表番号と発表題目をそれぞれ示す。

▼ポスターセッション1 (14件)

- P1-1 大学入試を中心とした情報分野の学力評価手法の検討 ～第2報～
- P1-2 人生を変える山吹メソッド! ～情報オリピック (JOI) を題材として～
- P1-3 ピクトグラムの作成を通じてHTML, CSSの実習が短時間でできるアプリケーション「ピクタグラミング」
- P1-4 Processing教材の共有・共創ウェブプラットフォームの開発
- P1-5 公開鍵暗号を体験的に学習できるWebツールを用いた教育実践
- P1-6 小型コンピュータを用いた情報Iのまとめとなる問題解決活動の実践と評価
- P1-7 3年生で「情報I」を履修する生徒は、授業を通して情報入試対策をどう捉えたか? ～プログラミングを中心に～
- P1-8 プログラミング習得のための課題採点方法の提案
- P1-9 デジタルシティズンシップ時代における個人情報保護と活用のあり方を問う授業とは～情報の発信者としての視点を育む授業実践と探求的な学びに向けた試案～
- P1-10 「情報I」における横断的な視点をを用いたデータの読み取りおよび活用を考えた教材の開発
- P1-11 Python指導奥の細道: 生徒成果物を含むCGプログラミング実践報告
- P1-12 ピ数変換
- P1-13 プログラミング教育におけるカラーユニバーサルデザイン配慮

P1-14 「情報Ⅰ」との差異にみる「情報Ⅱ」の位置づけ

▼ポスターセッション2（14件）

- P2-1 個別最適化学習が可能なロボット型プログラミング教材の展示
- P2-2 ピクトグラムコンテンツ共有・相互評価システム ～ピクトグラミーティング～
- P2-3 ExcelのPBL教材が生徒のグラフ表現能力に及ぼす影響
- P2-4 表の内容を平叙文に要約する授業実践
- P2-5 情報科とGIGAスクールを核にしたカリキュラムマネジメント
- P2-6 メタ認知と相互理解によるメディア・リテラシー教材の提案
- P2-7 すぐ使える！通信プロトコルシミュレータProtoSim（プロトシム）～実践結果2023&展望2024～
- P2-8 PICTO（Pseudocode for Informatics of the Common Test Optimizer）の開発
- P2-9 生成AIの利用例と法的規制の可否を通じて検討する著作権侵害に関する授業実践
- P2-10 基礎情報学を基盤にした生成AI学習教材の開発
- P2-11 学校図書館と連携した問題解決の授業実践
- P2-12 「縦糸」と「横糸」を意識した情報教育の実践～プログラミングなどにおける探究的学習のカリキュラム設計の提案とその実践～
- P2-13 情報教育における生成AIの利用：高大接続教育を踏まえて
- P2-14 機械学習を取り入れた情報Ⅱの授業

2.5 企業展示（1・2日目）

愛知大会では、40件の協賛をいただき、31の企業・団体に企業展示に出品していただいた。企業展示はポスターセッションと同会場で開催され、さまざまな教材やサービス、書籍などの展示と紹介が行われた。なお、ポスターセッションとは異なり、企業展示は1日目と2日目を通して同じ企業・団体が展示を行った。

愛知大会では皆様から多大なるご支援を賜り、協賛金を大会運営のほか、オリジナルクリアファイルの配布や、大型冷風扇の設置など暑熱対策に充てることができ、参加者の満足度向上につなげ

ることができた。

2.6 講演（2日目）

2日目の講演では、田崎丈晴氏（国立教育政策研究所教育課程調査官・文部科学省教科調査官）に「デジタル化が進む中で情報科の授業実践へ期待すること」という題目でご講演をいただいた。DXハイスクールや情報Ⅱ，数理・データサイエンス・AI教育，教科間連携，大学入試，教員研修などさまざまな視点から情報教育の現状と未来について説明されるとともに、日本の未来のために情報科を変えていかなければいけないという熱い思いが私たち現場の教員に伝えられた。

2.7 閉会行事（2日目）

閉会行事では、実行委員会を代表して井手広康（愛知県立旭丘高等学校教諭）が御礼のことは述べた後、次期開催地を代表して滑川敬章氏（千葉県立流山南高等学校校長）が挨拶した。最後に、開催地を代表して井谷直樹氏（愛知県立三谷水産高等学校教頭）が閉会のことは述べ、愛知大会を締めくくった。

3. おわりに

2020年の愛知大会の中止の決定と同時に、二つの約束を残して当時の実行委員会は一度解散した。一つ目の約束は「コロナを乗り越えたら、必ず愛知大会を対面で実施しよう」ということ、二つ目の約束は「そのときには、また同じメンバーで集まろう」ということだった。それから4年たった2024年、当時と同じメンバーに、新たに多くの先生方が加わり、万全を期して愛知大会を対面で開催することができた。

ご来賓の皆様、ご協賛企業・団体の皆様、ご講演をいただいた中村様・田崎様、分科会／ポスターセッションでご発表をいただいた皆様、会場をお貸しいただきました愛知県立大学の皆様、そして参加者の皆様、愛知大会に関わってくださった全ての皆様に、実行委員会を代表して深く御礼申し上げますとともに、次回開催地である千葉大会の盛会を心より祈念する。